

「保健医療科学」
第60巻 第2号 予告

特集：今後の難病対策のあり方について（仮題）

今後の難病対策について－行政の視点から－（仮題）	中川義章, 中田勝己
今後の難病対策への提言（仮題）	金澤一郎
難病患者の療養支援のあり方（仮題）	糸山泰人

指定研究より

臨床調査個人票の有効活用及び臨床データベースの構築（仮題）	金谷泰宏
難病・希少疾患対策の国際的な動向（仮題）	児玉知子
病態解明に向けた原因不明先天異常バイオリソースの構築と潜在的ゲノム構造異常解析（仮題）	羽田明, 稲澤譲治

トピックス－難病医療の最前線－

表皮水疱症の再生医療（仮題）	玉井克人
筋委縮性側索硬化症の治療（仮題）	青木正志
脊髄筋委縮症患者が使用可能なスーパーロボット（仮題）	中島孝

編集後記

今回の特集は臨床試験・治験に関する最新の動向として、厚生労働省における施策の動きや臨床試験・治験の基礎となる研究体制、具体的には臨床試験・治験に関わるインフラやロジスティック、研究デザインや統計モデル、臨床研究情報の検索方法、新薬開発にあたって医師の知識が薄いとされる薬物動態・薬力学の領域などが幅広く網羅された中身の濃い特集となっている。グローバル化は、臨床や新薬開発においても例外ではない。昨今の希少医薬品開発への政府・製薬企業の投資は、患者数の少ない疾患における症例数の確保、市場の拡大などの目的もあいまって、多施設化、国際共同化が益々進んでいる分野である。国内における臨床試験・治験のレベルは近年非常に改善されてきているが、生物統計家の起用は十分でなく、臨床家に対する教育もさらに改善が必要である。臨床研究に関係して海外の専門家と話をする機会があるが、日本のデータクオリティは極めて高いという意見も聞く。施設や分野によって差はあるかもしれないが、今後は、質の高い産業製品を誇る日本において、医療や臨床試験・治験も例外でない日が来ることを期待したい。

(人材育成部 児玉知子)